

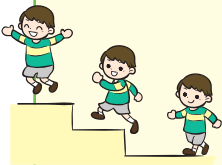


できたよ！  
うれしいな！

今回は足羽ワークセンター自立訓練(生活訓練)事業を利用していらっしゃる方の成長過程とその取り組みをご紹介します。

### 自立訓練とは・・・

社会に出る前の準備期間として身の回りのことから、社会で必要なあいさつやコミュニケーション、就労等の訓練を行うことを目的とした事業のことです。特別支援学校を卒業した後に利用される方が多く、成人期の方々が、自立に向けて練習・訓練に取り組んでいます。日中活動を通して社会的に自立した日常生活を営むために必要な訓練、生活等に関する助言、その他必要な支援を行っています。



#### ▼事業所内作業

①ラベル貼り、梱包作業等の内職作業

②作業を通しての報告・連絡・相談

#### ▼学習タイム

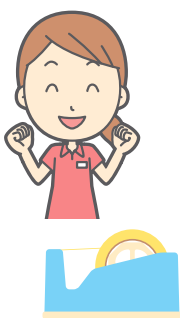
①日常生活・コミュニケーション・就労において必要な学習の講義やグループワーク

#### ▼社会体験活動

施設や工場見学・体験・実践

当事業所では活動を大きく3つに分けて実施していきます。これらを通し「できないことをできるようにする支援」だけでなく「できていることを伸ばす・活かす、また治具(※)や機械を活用してできるようにする支援」の充実を図っています。自分一人では難しいことであっても、ちょっとした道具やお手伝いがあれば、できることがたくさん見えてきます。それらの治具やアイデアの活用によって、利用者の方の可能

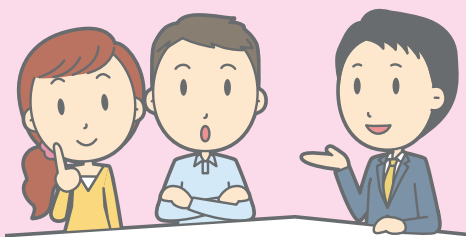
性が広がり、新しいステップ、目標につながります。はじめは治具の活用を拒否したり、新しい内容に戸惑ったりと、人それぞれ困難にぶつかることはありますが、その際は、新しいことに挑戦できた前向きな気持ちを持続できるように、利用者の方と職員の協働作業によって、乗り越えていきます。かかる時間は人それぞれですが、大きな達成感・喜びに向けて頑張っている姿が印象的です。実際に利用者の方からは「○○ができますようにになりました」、「次の目標は○○です」とうれしそうなお声を聞くことができます。またこれらの経験は利用者の方の自信につながり、ステップアップになっています。



※治具：正確な作業を行うために補助する道具

### 「ルールを守れるようになったよ」

ルールを守りたい気持ちはあるけれど、こだわりが強く、自分の気持ちを抑えられずに困っていたBさん。ご本人からの要望で、視覚情報を掲示。視覚情報での効果は薄く、何度も職員と話し合いの場を設け、ご本人から出てきた言葉「気になることは職員に報告する」の目標を設定。少しハードルの高い目標でしたが、自分自身で考えた目標であるためか、実行しようとする意識は高く、今ではきちんと報告することができています。



### 「落ち着いて課題ができるようになったよ」

お絵かきが得意で、個別課題の時間に集中して取り組まれていたAさん。可能性を広げるため、別の課題を提案。はじめは大好きなお絵かきができないことに対して興奮されていましたが、別の課題に挑戦してほしい理由を伝え、ご本人と一緒に課題のプログラムを考えました。今では1時間に3つの課題を楽しみながら、取り組むことができるようになりました。課題の最後にお絵かきの時間を設けることで、目標をもって、参加することができています。



### 「職員とのお話楽しいな」

職員とのかかわりを求め、良くない行動にて職員の気を引こうとすることが目立っていたDさん。素直な気持ちを伝えられず、職員からの指摘をかかわりとして捉えていた様子。そこで、個別に職員と会話をする時間を設け、コミュニケーションを実践にてお伝えしました。また、会話の終わりには楽しく話ができたと振り返ります。今では個別の時間を設けなくても、自ら適切なコミュニケーションにて職員との会話を楽しむことができています。



### 「できることが増えたよ」

ラベル貼りの作業において、テープの長さの調整を苦手としていたCさん。さまざまな練習を行いました。克服することが難しく、試行錯誤していたそのとき！電動テープカッターを発見。即購入させていただきました。適切な長さが自動で出てくるため、適切な長さできれいな作業ができるようになりました。その後3ヶ月で電動テープカッターを卒業。今では通常のテープカッターを使用しており、ご本人の自信・喜びにもつながりました。



当事業所では、毎日の作業や個別課題を中心に一人ひとりのニーズを探り、目標や課題を抽出しています。利用者の方の声を聴きながら、昇りやすいステップを提供し、スモールステップにて一つひとつ階段を昇っていきます。目指す目標は人それぞれですが、毎日少しずつ成長、変化が見られています。その中で、上記のような経験をもとに、将来の自立に重要となってくるコミュニケーションや、気持ちのコントロール等を身につけていきます。利用者の方、職員ともに困難にぶつかるとはありますが、試行錯誤を繰り返しながら、利用者の方の協力を得ながら、信頼関係を築いていきます。

このように苦楽をともに共有し、乗り越えることで生まれる信頼関係を大切に、今後も利用者の方の自立を目指していきます。

足羽ワークセンター  
生活支援員 高島 唯

